

本学看護学科の解剖見学実習における学生の学び

THE STUDENT'S LEARNING OF PRACTICAL OBSERVATION OF THE DISSECTED CADAVERS IN DEPARTMENT OF NURSING

桑 田 恵美子¹⁾

Emiko KUWATA,

小野寺 健²⁾

Ken ONODERA

キーワード：解剖見学実習，看護学科，学生の学び

Key words：Practical observation of dissected cadavers, Department of nursing,
Student's learning

要 旨

解剖見学実習後の学生の課題レポートを分析し，見学実習から得られた学生の学びを明らかにすることを目的とした。

方法は本学看護学科における見学実習に参加した1年生85名の見学実習後「解剖見学実習を通して学んだこと，感じたこと」に関するレポートを内容分析の手法に基づき分析し，見学実習の目的に沿って学生の学びを検証した。

結果，学びの内容は167データが抽出され，7つの『サブカテゴリー』，3つのカテゴリー【立体構造の理解】【生と死の気づき】【医療に携わる者としての意識の深化】を生成した。解剖見学実習は，授業で学んだことと実際の見学が頭の中でつながったことや今後の学習意欲の向上につながっていた。また将来看護師として医療に携わり，多くの命を救いたいという医療に携わる者としての意識の深化につながっていた。

1) 仙台青葉学院短期大学 看護学科

2) 仙台青葉学院短期大学 歯科衛生学科

受理日：2018年3月15日

諸 言

近年、医療の高度化や入院患者の高齢化などにより社会の医療、看護へのニーズが高まっている。文部科学省看護学教育の在り方に関する検討会報告(2011)では、専門分野において今後、全ての看護師等には、主体的に考え行動することができ、保健医療福祉などあらゆる場において看護を提供できる能力を生涯通じて獲得していくことが求められている。具体的には看護師教育の早い時期に行われることが多い専門基礎分野の教育において、学生の興味関心が高まるように看護と関連づけた事例を用いるなど教育方法を工夫し、専門基礎分野の教育内容が看護の役に立つ内容であることを意識できるよう教授することが望ましいと述べている。また、同報告では学士課程におけるコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標において健康レベルを成長発達に応じて査定する能力として人体の機能の理解を挙げている。また厚生労働省検討会の報告(2011)では、看護師養成所教育について看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標では、ヒューマンケアの基本的な能力として対象理解の構成要素の中に、人体の構造と機能の理解を上げている。看護実践能力につながる人体の構造、機能への理解は必須である。

外崎・小林・塩田・他(1997)は医療技術者養成機関における人体関連教育に関する実態調査の結果、養成職種 看護婦(士)では55%が解剖実習を取り入れていることを報告している。また、渡辺(1998)は人体関連の実習教育が、生命の尊厳など医療に従事しようとする看護学生に生と死について考える機会となったり、献体行為に関する畏敬の念など倫理的教育効果が大きいことを報告している。解剖見学実習は人体の構造、人体の機能の理解だけでなく、倫理的教育の効果が大きいといえる。

看護学科における解剖見学実習(以下見学実習とする)に関する先行研究で、清水・蓮池・外村・他(2017)は見学実習が看護学生としての自覚・学習姿勢等を再認識できる場となっていることを

報告している。また古屋・野村・阿部・他(2017)は見学実習の教育効果の研究において、見学実習の体験が、怖さや不安をしのぐほど学生を引き付け、知的好奇心を刺激し座学で得た知識との格段の差を実感したことを報告している。見学実習は、知的好奇心を刺激される場となり、人体をより深く理解する上で重要である。

本学看護学科では、2016年より見学実習を1年前期終了時に実施している。目的は人体の構造・機能をより深く理解し、医療領域に携わる者としての知識と意識を深める事である。見学実習を実施して2年目となるがその教育効果を分析していない。本調査では、見学実習後の学生の課題レポートを分析し、本学看護学科での見学実習から得られた学生の学びを明らかにする。

I. 方 法

1. 見学実習の概要

看護学科では、2016年度から見学実習を1年次前期 人体構造と機能Ⅱの科目に位置づけ、A大学とA大学献体篤志家団体の全面的協力を得て行われている。見学実習までの準備として、見学実習に向けてオリエンテーションを行った。見学実習の目的や留意点、進め方を説明した。目的は以下の2点である。

- 1) 人体構造と機能Ⅰ・Ⅱの講義で学んだ知識をもとにA大学で実施している解剖実習のご遺体を観察し、人体の構造・機能をより深く理解する。
- 2) ご遺体に接し、生命と死、献体の意義を考え、医療領域に携わる者としての知識と意識を深める。

また見学実習前にA大学教員より「献体と倫理的視点」の主題で90分講義を受けた後、見学実習に臨んだ。見学実習は学生を午前、午後の2グループに分け、約45名を1つのグループとし実施した。「実習講義」「見学実習」では約45名を4つのグループに分け4つの場(頭部・胸部循環器系・消化器系・筋肉骨格系)ごとの講義を受け、その後グループごとに4つの場をローテーションして

見学した。引率は人体の構造と機能Ⅱの科目担当教員1名と看護学科教員2名を配置した。見学実習前に、見学実習に入ることを拒否する学生には、その倫理的配慮をすることを伝えた。

人体構造と機能の授業概要は、人間の健康障害をきたす疾患を理解するうえでは、正常な体の構造とその機能を理解することである。人体構造と機能Ⅰでは、筋肉骨格系を中心に人体構造と機能を学ぶ。人体を構成する細胞から結合組織、骨の構造と連結の状態、筋組織およびそれに付随する神経組織、そして体内の流通システムとしての循環系について、構造・形態を学ぶ。そしてそれらが人体内においてどのような働きをしているのか学ぶ。人体構造と機能Ⅱとは、人体を構成する器官系、すなわち、体内の流通システムとして循環器（心臓、血管および血圧）、呼吸器、消化器（肝臓・胆嚢・膵臓や消化吸収、栄養分の代謝を含む）、腎・泌尿器などの構造と機能を学ぶ。人体構造と機能Ⅲは1年次後期授業として配置し、授業概要は中枢・末梢神経、皮膚および感覚器構造と機能を学ぶ。さらに、生殖器系、内分泌系、免疫系についても学ぶ。

2. 対象

本学看護学科における見学実習に参加した1年生 85名の見学実習後「解剖見学実習を通して学んだこと、感じたこと」に関するレポートを対象とした。

3. 期間

2017年8月~2018年1月

4. 分析方法

内容分析の手法に基づき実施した。内容分析手法（Krippendorff, 1980/2001）とは、データをもとにそこから文脈に関して再現可能でかつ妥当な推論を行うための一つの調査技法である。その目的は知識や新たな洞察、「事実」に関する表象、行動に対する実践的指針などを提示することである。提出されたレポートより、学生が捉えた「解

剖見学実習を通して学んだこと、感じたこと」に該当すると思われる部分を抽出し、文脈ごと・類似性によって分類し「データ」、さらに抽象度を上げて『サブカテゴリー』から【カテゴリー】とした。また抽出された内容から見学実習の目的の到達度を分析し学生の学びを検証した。

見学実習後の学生のレポートを使用するに当たり、学生に使用目的、個人が特定されないことを口頭で説明し同意を得た。

II. 結 果

見学実習を通して学生が捉えた学びの内容から167データを抽出した。『サブカテゴリー』7つ、【カテゴリー】3つを生成した。以下【カテゴリー】ごとに述べる。

1. 【立体構造の理解】カテゴリー

【立体構造の理解】とは、体の構造を奥行き・深さ・厚みなどからの理解であり、『人体の感覚的描写』『個人差の感覚的描写』『自分のからだとの関連付け』『授業との関連づけ』の4サブカテゴリーが抽出された。表1に示す。

『人体の感覚的描写』は、49データから構成されていた。具体例は「見た目は小さく触ったら壊れてしまいそうな臓器でも、実際触ったら厚さ、ヒダがしっかりしていた」があった。人体の構造について細部まで学んだ内容を学生の感覚的表現を付加しながら記載していた。『個人差の感覚的描写』は、14データから構成されていた。具体例は「肝臓のへこみは、締め付ける服を好んで着ていた方と聞いて、長年着用することでこのようになる」と知った」があり、見学を通して臓器の個人差について学んでいた。また臓器にはその個人の生活スタイルや生活習慣が反映している等、個人差を学生の感覚的表現を付加しながら記載していた。『自分の身体との関連づけ』は8データから構成されていた。具体例は「脳や肝臓はずっしり重く、自分の身体の中にも同じように重い臓器があると思うと不思議な感じ」があり、自分の身体と関連づけながら学んでいた。『授業との関連づけ』は17データから構成されていた。具体例は

「授業で学んだことと実際の解剖見学が頭の中でつながることができ、人体の構造と機能の科目に興味湧いた」があった。テキストでは理解しきれない感覚としての大きさや硬さ、重さ、厚さの理解につながっていた。

2. 【生と死の気づき】カテゴリー

【生と死の気づき】とは、見学実習を通して人の生と死について気づいたことであり、『命の大切さ』『病気がもたらす死』『生命の神秘』の3サブカテゴリーが抽出された。表2に示す。

『命の大切さ』は10データから構成されていた。具体例は「内臓の一つ一つの活動によって人がどのようにして生きているのか改めて知り、命の素晴らしさを感じた」があった。「実習講義」を受け、臓器を視て、触れることで改めて命の大切さを感じた内容である。『病気がもたらす死』は5データから構成されていた。具体例は「人を死に追いつめる病気にとても恐怖を覚えた」があった。献体者の病変部を視ることで感じた死の恐怖である。『生命の神秘』は2データから構成されていた「子宮、卵管は小さく数多くの精子と卵子が出会い、無事に受精・着床し命が育っていくと思うとなんとも言えない気持ちになった」があった。臓器を視て、触れることで人間の生命を構成する臓器の神秘を感じたことである。

3. 【医療に携わる者としての意識の深化】カテゴリー

【医療に携わる者としての意識の深化】とは、見学実習を通して医療に携わる者として考えが深まったことであり、『人の命に関わることへの心構え』『看護師になることへの意欲』『献体者と家族への感謝と敬意』『学習意欲の向上』の4サブカテゴリーが抽出された。表3に示す。

『人の命に関わることへの心構え』は7データから構成されていた。具体例は「少しでも医療の発展に役立ち、一人でも多くの命を救いたいと感じた」があった。『看護師になることへの意欲』は17データから構成されていた。具体例は「改めて

て看護師として働きたいと思わせてくれたのはご遺体とご家族のおかげである」があった。『献体者と家族への感謝と敬意』は19データから構成されていた。具体例は「長い人生を終えて医学の発展のためにご遺体を提供してくださった方々、ご遺族に感謝しています」があった。『学習意欲の向上』は19コードから構成されていた。具体例は「開始前は不安があったが、それよりも学びたい思いが強く興味をもって実習が行えた」があった。

III. 考 察

見学実習の目的2点に沿いながら結果を考察する。

1. “人体の構造をより深く理解する”について

この目的については、【立体構造の理解】が該当する。88データが抽出されレポート記述として一番多かった。『人体の感覚的描写』『個人差の感覚的描写』『授業との関連づけ』『自分のからだとの関連づけ』の4サブカテゴリーから構成されていた。古屋・野村幸子・阿部真幸他(2015)は見学実習について目で見て、触れて、感じたことで実感として臓器そのものの理解が深まったことを報告している。本学看護学科の学生においても、「実習講義」「見学実習」を通して学びが深まっていたと考える。『人体の感覚的描写』はレポート記述が一番多く、視て、触れた臓器を詳細に自分の言葉で表現していた。また学生は、人間は個性があると看護原論の授業で学んでいる。『個人差の感覚的描写』は臓器も個人差がありその個人の生活スタイルや生活習慣が反映していると考えを深めている。清水・他(2017)の見学実習後のレポート分析結果でも、ひとりひとりの臓器に個性があること等、個人差の描写として理解していたことを報告しており、同様の結果であった。『授業との関連づけ』は授業で学んだことと実際の見学が頭の中でつながったことやテキストでは理解しきれない大きさや硬さ、重さ、厚さの感覚的理解ができ、人体の構造と機能の科目への学習意欲につながっていた。菱沼(2000)は、人体解剖で実際に手にして学ぶことが、人体の理解には

表1. 【立体構造の理解】カテゴリー

サブカテゴリー	データ
	授業では理解できなかった気管、大動脈、食道がどう重なって肺の間に収まっているか心臓に分布する血管などの立体構造
	授業では部分ごとの学習のため分からなかったが、体全体から繋がりがどのように働いているか理解できた
	人が生きて行くためにさまざまな構造があり、一つ一つが働くことによって生きて行くことができる
	それぞれ役割に応じた部位形の違いがあることを見て学ぶことができた
	身体全ての器官に意味があり働いていると感じた
	教科書は平面的だが、臓器を立体的に見ることができ位置関係を学ぶことができた
	臓器の位置関係が複雑である
	臓器の形や重さ、色や感触について学ぶことができた
	見た目は小さく触ったら壊れてしまいそうな臓器でも、実際触ったら厚さ、ヒダがしっかりしていた
	解剖を見学したことでどの臓器が外側で、どの臓器が内側にあるか知ることができた
	肝臓は人体の中で一番大きい臓器であり4葉に分かれている
	胆嚢は肝臓の裏にあり、緑色をしていた
	脊髄は枝分かれして全身に神経が張り巡らされていることが想像できた
	脊髄は思ったより短くてびっくりした
	脊髄は約45cmの長さで神経組織で、末端部は馬尾といわれ馬の尾のような集まりをしていた
	横隔膜は食道が通るところに穴が空いて、食道がふさがらないような作りになっていた
	比較的重い脳が首一本で支えられているのはすごいことだ
	脳の血管は小さなヒダの間をしっかりと通っていてこれを作る人間の細胞はすごいと思った
	大脳は白質と灰白質の違いが非常に分りやすかった
	大脳と小脳では構造が全く違っていった
	大脳は軟膜・クモ膜・硬膜という膜に包まれ、脳の溝に沿って血管が通っていた
人体の感覚的描写	ウィルス動脈輪は思った以上に細い血管でつながっていた
	小脳には大きなヒダがあり、神経細胞が集まって運動機能をコントロールしていると説明を受けた
	クモ膜の下に黒い血管が脳のシワの間を避けるように通っていて、スペースを有効活用していた
	脳は内頸動脈、椎骨動脈によって給血されていることが分かった
	脳は体の1/40の大きさである
	脳室の空間あることを実際に見て、触って学んだ
	肺は見た目に反して柔らかく弾力性があった
	肋骨の間の呼吸に関わる筋肉を確認できた
	気管支は軟骨であることを実際に触れて理解できた
	気管支は人のものとは思えないくらい太くしっかりしていた
	気管支の左右の長さ、角度の違いを見ることができた
	心臓はいろいろな血管が入り出して複雑な構造だった
	左心室の壁の方が右心室の壁の約三倍の厚さになっていてあまりの厚さの違いに驚いて声が出なかった
	心臓の表面を流れる血管の部位を確認できた
	心臓はとても小さく、この臓器が中心になり、すごい力で動かしているのだと感じた
	大動脈弓が背中の方まであるのを実際に見学できた
	小さな心臓が何十年も休みなく働き続けると思うと素晴らしい臓器だと改めて感心した
	人間の身体は筋肉に囲まれており、メモシきれないほどたくさんの筋肉があった
	筋肉がどの方向にどんな流れで付いているか実際に観察して、厚さ、大きさを詳しく理解できた
	胸腺は大人になると脂肪に置き換わることを学ぶことができた
	子宮は非常に小さく、ここに赤ちゃんがで大きくくると思うと人間の凄さを感じた
	子宮の裏にダグラス窩という大きな隙間があった

サブカテゴリー	データ
人体の感覚的描写	腎臓は右に肝臓があるため左よりも下に位置していた
	腰から脚にかけて太い縄のような筋肉がラセン状に脚を囲んでいた。全身の体重を支えていると知った
	脾臓は想像したより小さく硬かった
	大腸は薄い太く、半月ヒダや結腸紐を観察できた
	空腸にはヒダがたくさんあり、回腸は輪状ヒダがあり薄くパイエル版があり相違が分かった
	十二指腸乳頭は硬く少し盛り上がっていた、オッディ括約筋もわかった
個人差の感覚的描写	特に驚いたことは個人差がとても大きいことである。男女の違い、同性同士、同じ臓器でも十人十色である
	人の外見に差があるのはもちろんだが、人の身体の内面にまで差があることを少し理解した
	生まれながらに機能に障害があることや生活上で酷使することによって機能を失うことが理解できた
	身長の高い、体格のいい人は内臓も大きめで、身長の小さい人は臓器も小さめだと感じた
	肺は体格によって個人差が大きい臓器と感じた
	肝臓のへこみは、締め付ける服を好んで着ていた方と聞いて、長年着用することでこのようになると知った
	身長の小さい人の肺を見て、あんな小さい臓器で生活したり、運動したりして人間はすごい
	赤ちゃんの頭蓋骨は紙のように軽かった
	生活してきた環境や食生活で体が違うことが分かった
	高齢者の腎臓に黒い斑点があり、腎臓がだんだん悪くなってきていると教えてもらった
	人の内臓は顔のように人それぞれ違う
	頭蓋骨は、男性はえらが張り眼の上の部分少し出っ張っている
	外見だけでなく臓器も年をとるということを見学できた
	女性はあごの部分がシャープ
自分の身体との関連づけ	脳はこんなに重いのになぜ普通に生きていて重いと不便を感じないのか不思議に思った
	肝臓はとにかく重く、自分の体にもあるのが信じられなかった
	脳や肝臓はずっしり重く、自分の身体の中にも同じように重い臓器があると思うと不思議な感じ
	先天性の心臓病だったので心臓を見るのに興味があった
	自分の身体にも同じものが詰まっていると思うと改めて感動した
	自分が生れてくる前、母親の体の中で同じものが作られてきたと考えると神秘的で奥が深い
	健康で過ごしていくためにも、若いうちから生活習慣を整えていくべきだと感じた
	脳が自分の頭に入っていて自分の考えや行動の指令塔だと実感がわかなかった
授業との関連づけ	立体的な構造について理解を深める事ができた
	脊髄は教科書に出てくるような形態をしていた
	授業で習った場所の位置関係や感触を感じる事ができた
	脳は教科書でよく見る断面でわかりやすかった
	どの臓器も教科書とほぼ変わらないことがわかり、教科書の凄さを知ることができた
	教科書で見るのと違い、見分けがつかなかったが、説明を受けることで理解ができた
	脂肪は黄色い、胆汁によって胆嚢や肝臓が緑色に見えるなど、教科書や座学で学んだことも観察できた
	全ての臓器においてテキストではわからない大きさ・硬さ・重さを学ぶことができた
	教科書では確かめることはできない実物を見て触れることにより一層臓器を立体的に捉えることができた
	講義で学習したばかりだったため、教科書の図と実物を照らし合わせて捉えることができた
	今までの授業の裏付けとなった
	講義やDVDでみた筋肉や臓器の位置・構造は勉強した通りだが、硬さや厚さは実際に触れないとわからない
	教科書でしか内臓を見ていなかったため、実際の大きさや形がイメージしにくかった
	人の組織と教科書の絵や写真、先生が話していたことが同じであったことに感動した
	授業で学んだことと実際の解剖見学が頭の中できながることができ、人体の構造と機能の科目に興味を湧いた
	座学で見る身体と実際の身体は同じだけど学びの質が大きく違いとても感動した
	イラストと実物がいかに違うか理解できた

表 2. 【生と死の気づき】 カテゴリー

サブカテゴリー	データ
命の大切さ	大切な命からたくさんのことを学ばせてもらった
	命の大切さや重さについて考えることができた
	生命の尊さを改めて感じた
	人の生命の尊さについて考えられるようになった
	人体のつくりの素晴らしさと生命のありがたみを感じた
	人を大切にしていこうと思った
	臓器の役割を果たせるように構造が異なっていることで生命が保たれていることが分り、命の尊さを感じた
	どの臓器も思ったより柔らかく小さかった。触ることで命は儚いものだと感じた
	内臓の一つ一つの活動によって人がどのようにして生きているのか改めて知り、命の素晴らしさを感じた
	生と死が隣り合わせでいつどうなるか分からない。今ある命を粗末にしないようにしっかり生きたい
病気がもたらす死	人を死に追いつめる病気にとても恐怖を覚えた
	ご遺体も生きていたころは一人一人の人生があったと思うと非常に悲しくなった
	もしこの方に腫瘍が無かったらまだ生きていたことができたかと考えさせられた
	臓器の異常が分り、献体された方の生前にどんな苦しみを感じていたかと考えさせられた
	年齢、性別が違い、手術痕からどんな辛さや苦痛があったのか考えさせられた
生命の神秘	子宮、卵管は小さく数多くの精子と卵子が出会い、無事に受精・着床し命が育っていくと思うとなんとも言えない気持ちになった
	人間は体の内側の一つ一つが機能して生きて行くことができる。とても神秘的である

表 3. 【医療に携わる者としての意識の深化】 カテゴリー

サブカテゴリー	データ
人の命に関わることへの心構え	少しでも医療の発展に役立ち一人でも多くの命を救いたいと感じた
	ご遺体を目の前にしてそれぞれのご家族があり、人生を一生懸命歩んできた歴史があったのだと思うと「人」について深く考えさせられた
	身体の機能を知ることなくして生命を守ることはできないと感じた
	これから更に責任ある行動をして、勉強に励み倫理観のある人になりたいと強く思った
	身体の少しの変化にも気づけるようになりたい
	医療従事者として患者その家族とかかわりを持っていくことは、患者の死とも向き合わなければならない
	二度と経験できないであろう解剖見学できたことは、この道に自分が進んだことと結びつく
看護師になることへの意欲	学んだことは、人が生きて行くうえでとても大切な知識であり、看護師にとっても大切なものである
	今日の経験を看護師として生かしていけるように学んでいきたい
	看護師として働くようになったら患者中心の看護を大切に、助けてゆきたいと思った
	見学を通して看護師としての自覚、知識と技術を身につけなければならないことを学んだ
	献体のお一人お一人に何人もの思いが込められている。看護師になる上で失礼の無いよう勉学に励みたい
	大切な体を勉強のために差し出した気持ちを考えもっとたくさん勉強して立派な看護師になろうと思った
	ご遺体に報いるように成長したい
	看護学生としてこれからたくさんを学んでいく上で貴重な体験となった
	看護師にしかできない健康へのアプローチがあると気づいた
	学んだことを無駄にしないようこれからの学習に活かして、より良い看護を提供できる看護師になりたい
	人体の構造と機能を理解していないとより良い看護が提供できない
	目の前の患者さんは患者である前にひとりの人として忘れてはいけない心を大切にしたい
	将来看護師として援助する人たちの病気の苦しみを内面から理解することにつながった
	身体の特徴・個性を理解し、その人に合った援助をすることが健康を促進することであると分かった
改めて看護師として働きたいと思わせてくれたのはご遺体とご家族の方のおかげである	
患者の心身の弱さに寄り添う看護師になるため、学んだことを頭に焼き付け専門的理解できるよう努力したい	
看護師になって患者の状態をアセスメントする際に見学して得た知識を生かしたい	

サブカテゴリー	データ
献体者と家族への感謝と敬意	看護学生だからできる貴重な経験であった。献体の方々に感謝の気持ちでいっぱいになった
	献体になられた方々のおかげで見学することができた
	白菊会に入会され私たちのために提供して下さった方々のおかげであり、献体の方々、ご家族の方に感謝
	終りの黙祷では献体に協力して下さった方々、ご家族に感謝したい
	献体して下さった人が、提供して良かったと思ってく下さるような態度や気持ちが大切である
	見学前は不安であったが、献体して下さった方やご家族の気持ちを考えると感謝の気持ちが湧いてきた
	協力して下さった方々に心から感謝して頑張っていこうと思った
	病気になったにもかかわらず学生のために献体下さったこと、同意されたご家族に感謝したい
	長い人生を終えて医学の発展のためにご遺体を提供して下さった方々、ご遺族に感謝しています
	献体して下さった方々やご家族の期待に応えられるよう今回の経験を無駄にせず、重要な糧としたい
	本来火葬されるはずのご遺体を医療のために提供してくれたご本人の意志やご家族の協力に感謝したい
	ご遺体の臓器と思って敬意を丁寧に扱った
	人体の凄さを改めて知ることができ、献体下さった方々のおかげであると感じた
	解剖見学の実施前・後の黙祷は提供して下さった方々への礼儀と感謝の気持ちを表していることが分かった
	見学して得たものは一生忘れません。それが献体下さった方への感謝の気持ちである
	健康に生きることができているのは、献体に協力して下さる方々がいるからだ
	自分が学ぶことができたのは、献体として提供して下さった方々がいるからである。黙祷するのは礼儀である
	献体して下さる方々がいるから今日の医療があると感じた
ご献体された方が、どのような気持ちで、ご家族に話されたのか考えるともの凄いことだと思った	
学習意欲の向上	実際に見て触ったことで頭にも強く残ったので、このまましっかり復習していきたい
	授業で聞いた内容であったが思い出せず、復習が必要だと強く感じた
	ばらばらに理解するのではなく、つなげて考えることが大切である
	今まで臓器ごとに覚えていた知識が少しまとまった感じがする
	復習する時は、思い出しながら学習に励みたい
	これからの学習に活かしてゆきたい
	一層士気を高めて勉学に励みたい
	人間の身体はとても複雑だからこそしっかりと勉強して活かしたい
	献体して下さった方に感謝しこれからの学習につなげていく
	今までの学習とは違い、実際の臓器の姿を想像しながら学習に取り組んでいきたい
	もっと学びを深める事ができるように学習に取り組んでいく
	見たことや手の感触が残っているうちに、もう一度臓器について勉強をし直したい
	多くの学びと発見があり、より興味が湧いた
	実習が無駄にならないように今後の勉強や臨床に活かしていきたい
	見て学んだことをこれからの勉強、実習、臨床に活かしたい
	病態の理解にも人体の構造は基礎になるため、完全に臓器の仕組みや働き、構造を身につけたい
	開始前は不安があったが、それよりも学びたい思いが強く興味を持って実習が行えた
	一度目にして触れたことは学習意欲を増すのだと感じた
内臓や骨、筋肉についてさらに詳しく知りたいと思った	

最も効果的である。どんな精巧な模型でも、標本にはかなわないと述べている。人体の理解をするための見学実習の効果は大きかったといえる。

『自分のからだとの関連づけ』は、視て、触れた臓器と自分のからだに関連づけながら学びを深めている内容であった。渡辺（1998）は職業的な

問題意識をもたない看護の初学者に対する解剖学教育は、人体を身近な自分のからだとして感じさせること、構造と機能を連携して人体を理解させること、人体の局所と全体との関連を実感させるためには人体解剖の実習教育が大切であると述べている。本結果からも『自分の身体との関連づけ』

ができたことは、看護の初学者に対する解剖学教育として有効であると考えられる。

2. “生命と死、献体の意義を考え、医療領域に携わる者としての知識と意識を深める”について

この目的については、【生と死の気づき】【医療に携わる者としての意識の深化】の2つが該当する。【生と死の気づき】は見学実習を通して人の生と死について気づいたことであり、『命の大切さ』『病気がもたらす死』『生命の神秘』の3サブカテゴリーが抽出された。

渡辺（1998）は人体関連の実習教育は、献体行為に対する畏敬の念、生命の尊厳など看護学生に生と死について考える機会を与えると述べているように同様の結果となった。将来医療に従事する者として『命の大切さ』『病気がもたらす死』『生命の神秘』の理解は、重要な内容である。また『病気がもたらす死』は、病気がもたらす死の恐怖、死は避けて通れないものとして考えさせることにつながったのではないかと考える。

【医療に携わる者としての意識の深化】は、見学実習を通して医療に携わる者として考えが深まったことであり、『人の命に関わることへの心構え』『看護師になることへの意欲』『献体者と家族への感謝と敬意』『学習意欲の向上』の4サブカテゴリーが抽出された。

『人の命に関わることへの心構え』は【生と死の気づき】があったからこそ抽出された内容であると考えられる。『命の大切さ』『病気がもたらす死』『生命の神秘』が分かったからこそ「少しでも医療の発展に役立ち、多くの命を救いたいと感じた」というデータがあったのではないかと考える。また『献体者と家族への感謝と敬意』には、「長い人生を終えて医学の発展のためにご遺体を提供してくださった方々、ご遺族に感謝しています」のデータの記述があった。献体者とその家族から多くのことを学ぶことができた学生は、その感謝の気持ちを将来看護師として医療に携わり、多くの命を救うことに転化させていることが考えられる。

見学実習は、将来医療に携わる看護学生の意識の深化につながり、「改めて看護師として働きたいと思わせてくれた」というデータから『看護師になることへの意欲』を確固たるものにさせる意義があると考えられる。『学習意欲の向上』は、見学実習を通して人体構造と機能への学習意欲や興味が向上したことである。清水・蓮池光人・外村昌子・他（2017）の研究結果でも実習講義を聴講することで恐怖心が消えたことを報告している。献体を前に緊張感や不安はぬぐうことはできないが、それ以上に学習意欲に転化できたことは、『献体者と家族への感謝と敬意』の気持ちではないかと考える。将来医療に携わる者として真摯に学ぶことの重要性を強く感じたからこそ【医療に携わる者としての意識の深化】につながる考えを深めていたと考える。

今後の課題として、人体構造と機能Ⅰ・Ⅱの講義終了後の学びの到達度と見学実習後の学び到達度の相違の分析をしていないため検証する必要がある。また学生個々の学びの深さ、広がり異なることが考えられるため学生への個別指導方法も検討する必要がある。

本調査の限界として見学実習後、学生の成績向上にどのように影響を及ぼしたか検証できていない。

結 論

見学実習の目的に基づき課題レポートの内容から学生の学びを明らかにしたところ、学びの内容は167データが抽出され、7つの『サブカテゴリー』、3つのカテゴリーが生成された。

1. 目的1「人体の構造をより深く理解する」について

見学実習は『人体の感覚的描写』『個人差の感覚的描写』『授業との関連づけ』『自分のからだとの関連づけ』をして、【立体構造の理解】につながっていた。

2. 目的2「生命と死，献体の意義を考え，医療領域に携わる者としての知識と意識を深める」について

見学実習は『命の大切さ』『病気がもたらす死』『生命の神秘』から構成される【生と死の気づき】と、『人の命に関わることへの心構え』『看護師になることへの意欲』『献体者と家族への感謝と敬意』『学習意欲の向上』から構成される【医療に携わる者としての意識の深化】を深めることにつながっていた。

謝 辞

本学看護学科に解剖見学実習の機会を提供いただき、多くの学びをいただくことができました献体者のご遺族の皆様，ご指導頂きましたA大学の教員の皆様、学外の見学実習運営に携わった本学科の教員、本論文のまとめに協力いただいた対象者の皆様に深く感謝申し上げます。またご成願されました皆様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

引用文献

古屋肇子，野村幸子，阿部真幸，葛場美那，佐藤寿哲，瀬戸口要子，古谷昭雄（2015）．看護学科学生の解剖見学実習の意義．大阪青山大学紀要，8，97-105．

菱沼典子（2000）．看護学が望む人体構造学の内容と人材育成．Quality Nursing，6(8)，56-58．

Klaus Krippendorff（1980）／三上俊治・椎野信雄・橋元良明訳（2001）．メッセージ分析の技法「内容分析」への招待．（pp21-39）．東京：勁草書房．

厚生労働省（2011）．看護教育の内容と方法に関する検討会報告書．

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001vb6s-att/2r9852000001vbiu.pdf>（検索日2017.12.25）

大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会（2011）．大学における看護系人材養成の

在り方に関する検討会最終報告．文部科学省
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/018-15/toushin/04032601.htm（検索日2017.12.25）

清水容子，蓮池光人，外村昌子，関口敏彰，上田佳世，高橋可奈英（2017）．本学看護学科における解剖見学実習による学生の学びと今後の課題．森ノ宮医療大学紀要，11，111-126．

外崎昭，小林邦彦，塩田俊朗，高木宏，渡辺皓（1998）．医療技術者養成機関における人体関連教育に関する実情調査．解剖学雑誌，72(5)，475-480．

渡辺皓（1998）．看護婦・看護師養成機関における解剖学教育の現状と課題．解剖学雑誌，73(3)，281-286．